

東日本大震災津波からの 復興の取組状況について

～ いのちを守り 海と大地と共に生きる
ふるさと岩手・三陸の創造 ～

令和5年11月22日（木）
岩手県



岩手県イメージキャラクター「わんこきょうだい」

1 岩手県の復興関連計画

■岩手県東日本大震災津波復興計画（2011～2018）

平成23年（2011年）8月、「いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」を目指す姿とする「岩手県東日本大震災津波復興計画」を策定し、復興の取組を推進

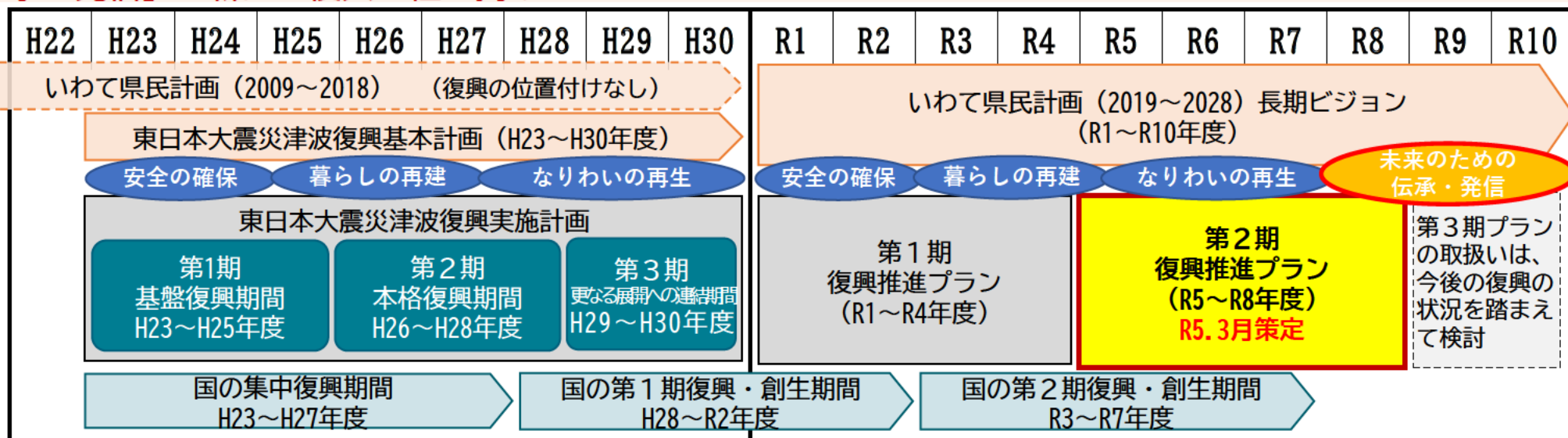
- ・復興基本計画：復興の「目指す姿」や原則、具体的取組等を明らかにするもの
 - ・復興実施計画：復興のために行う施策、事業及びその工程表等を明らかにするもの
- 第1期から第3期までの3つの期間に区分

- 復興計画に基づく取組を進めてきた結果、社会資本の整備等を始めとして、復興事業は着実に進捗
- 一方、被災者のこころのケアや住宅再建、事業者への支援等に中長期的に取り組む必要

■いわて県民計画（2019～2028）

○ いわて県民計画（2019～2028）長期ビジョン第4章に「復興推進の基本方向」を位置付け、復興を県政の最重要課題として、個人の尊厳を基本価値とし「誰一人として取り残さない」という理念のもと、復興推進プランに引き続き取り組むべき施策や事業等を盛り込み、切れ目のない復興の取組を推進

○ 震災津波の事実・教訓を後世に伝え、国内外の防災力向上に貢献していくため、「未来のための伝承・発信」を新たに復興の柱に掲げる



2 これまでの復興の取組

～安全の確保～

■防災のまちづくり

土地区画整理事業や集団移転促進事業を活用した宅地整備を進め、**災害に強い安全なまちづくりを実現**

【復興のまちづくり（面整備）】

進捗率100%（7,472区画）令和3年3月完了



(陸前高田市)被災直後



(陸前高田市)土地区画整理事業後
(平成30年9月)

復興まちづくりと一体となった**防潮堤・水門等の復旧・整備を推進**

【海岸保全施設の復旧・整備（防潮堤・水門等）】

進捗率98.6%（140/142箇所）令和5年3月現在



(高田地区海岸)被災直後



(高田地区海岸)令和3年3月

■交通ネットワーク

復興道路・復興支援道路・復興関連道路が完成し、県土の縦軸、横軸を構成する「**新たな道路ネットワーク**」が形成

【いわての復興道路】

進捗率100%（県内359km）

令和3年12月全線開通



2 これまでの復興の取組 ～暮らしの再建～

■生活・雇用、保健・医療・福祉

応急仮設住宅の全入居者が令和5年5月までに恒久的な住宅に移行し、新たな住環境で生活

【災害公営住宅の整備】
進捗率100% (5,833戸) 令和2年12月完了



(陸前高田市) 柝ヶ沢災害公営住宅
県内最大規模 301戸9階建て



(盛岡市) 南青山アパート
内陸避難者向け 99戸一部4階建て

■教育・文化・スポーツ

被災した公立学校施設の復旧が完了、復興教育副読本などを活用した「いわての復興教育」を推進

【公立学校施設の復旧】
進捗率100% (86校) 令和元年6月完了



(釜石市立鶴住居小学校)被災直後



(釜石市立鶴住居小学校)高台に移転整備
平成29年4月から新校舎で授業開始

被災した医療機関は診療を継続・再開、こころのケアなど被災者一人ひとりに寄り添った支援を継続

【県立病院の新築移転】
進捗率100% (3病院) 平成30年3月再開



(大槌町) 県立大槌病院
平成28年3月再開



(山田町) 県立山田病院
平成28年9月再開



(陸前高田市) 県立高田病院
平成30年3月再開

いわての復興教育



↑
児童生徒の
実践発表会

←
児童生徒用
副読本
「いきる」
「かかわる」
「そなえる」4

2 これまでの復興の取組 ～なりわいの再生～

■水産業・農林業

漁船や養殖施設等の復旧への支援、漁港及び海岸保全施設の復旧に取り組み、**ハード面での復旧・整備は完了**

【漁港施設等の復旧】

進捗率100% (31漁港) 平成29年3月完了



(音部漁港(宮古市))被災直後



(音部漁港(宮古市))復旧・整備後

農地復旧が完了、**ミニトマトやブロッコリーなどの高収益作物の導入**など創意工夫を凝らした取組が展開
ガストロミー（美食術・食文化）の観点から、**いわて三陸の豊かな食材や食文化を発信**



高度環境制御型園芸ハウスでのトマト栽培



国内外の著名なシェフや専門家を招いての三陸フュージョン料理ツアー

■商工業・観光

中小企業等の施設・設備の復旧支援や金融支援に取り組み、沿岸地域における**被災事業者の8割超が事業を再開**

【中小企業等復旧・復興事業（グループ補助）】

216グループ1,573者 919億円交付決定 (令和5年3月末現在)



(陸前高田市)アバッセ高田
平成29年4月開業



(大船渡市)キャッセン大船渡
平成29年4月開業

復興の動きと連動した観光振興を展開

三陸ならではの観光資源を活かして観光振興に取り組み、**県内主要観光地への入込客数は回復傾向**



↑北東北3県大型キャンペーン

←震災学習を中心とした教育旅行
(田老観光ホテル)

【参考】スノーピーク陸前高田キャンプフィールド

東日本大震災津波以降休止していた「陸前高田オートキャンプ場モビリア」が、令和5年9月23日（土）に「スノーピーク陸前高田キャンプフィールド」として、**リニューアルオープン**（所在地：陸前高田市小友町瀬沢地内）

テントの大型化やグランピング、犬の同伴を可能とするなど
キャンプ場への多様なニーズに対応した施設

- 運営 指定管理者（株）スノーピーク
- 敷地面積 22.4ha



2 これまでの復興の取組

～未来のための伝承・発信～

東日本大震災津波を語り継ぐ日条例

3月11日は、「東日本大震災津波を語り継ぐ日」です。

震災により亡くなった多くの尊い命に追悼の意を表し、震災の教訓を伝承するとともに、これまでの復興に向けた歩みの中で得られた多くの絆を大切に、一人ひとりの大切な人に想いを寄せ、ふるさと岩手を築いていくことを誓い、東日本大震災津波を語り継ぐ日を定めました。

事実・教訓の伝承

東日本大震災津波伝承館を令和元年9月に開館し、令和5年8月には、累計来館者数80万人を達成

【東日本大震災津波伝承館来館者数】

R元年度 開館(9/22)～3月	R2年度	R3年度	R4年度	合計 (R元～R4年度)
148,737人	170,699人	168,613人	207,009人	695,058人



伝承館を含む施設全景



解説員による来館者への展示解説

復興情報発信

「復興に力強く取り組む岩手の姿」や「国内外からの支援への感謝」を国内外に発信



第73回
全国植樹祭いわて2023
令和5年6月4日



震災語り部ガイドサミット
令和4年9月25日

いわて復興未来塾

東日本大震災津波伝承館開館3周年、震災語り部ガイドサミット
～未来はつながる、震災復興～



復興ポスター「いわて・三陸からありがとう！」



【参考】岩手県立図書館 Iルーム

■Iルームの開設

令和5年11月3日、JR盛岡駅に隣接する岩手県立図書館に震災・防災等の学び合いスペース「Iルーム」を開設

- 「いわての復興教育」の児童生徒等による探求的な学びの支援
- 自然災害や防災・安全を総合的に学ぶことができる情報拠点
- 県内の震災伝承施設等のサテライト的機能を分担



岩手県立図書館では、東日本大震災津波や防災を含む今日的な課題について、児童生徒やグループによる学び・探究等を支援するため、震災・防災等の学び合いスペース「I-ルーム」を開設しました。



県産材を使用したテーブル・イス



沿岸部の震災伝承施設等を 紹介するバナーボードも展示

【参考】いわて復興未来塾

令和5年度第2回
いわて復興未来塾
～震災12年・盛岡から考える復興と次世代への伝承～
併催：いわて三陸復興フォーラム（内陸報告会）

参加無料
定員 60名
参加申込〆切
12月4日（月）

令和5年12月17日 日
13:30～15:30

会場：エスポワールいわて 大ホール
〒020-0021 岩手県盛岡市中央通り1-1-38
TEL・FAX 019-623-6251

お申込みはこちらの
二次元コードから→



- 13:30～13:35 開会・知事挨拶
- 13:35～14:15 講演
盛岡市の復興支援と今後への提言
盛岡市副市長 中村 一郎 氏
- 14:15～14:55 震災津波の教訓を未来に生かすために
～故郷の復興・発展を支える人づくりを目指して～
岩手県立図書館長 森本 晋也 氏
- 14:55～15:25 事例報告
読書活動を通じた被災者支援と教訓の伝承について
認定特定非営利活動法人おはなしころりん理事長 江刺 由紀子 氏
- 15:25～15:30 知事コメント・閉会



会場の様子は、YouTubeチャンネル
岩手県公式動画チャンネルでライブ配信します！



主催：いわて未来づくり機構

お問合せ：岩手県復興防災課復興推進課 TEL:019-629-6945 FAX:019-629-6944 E-mail:AJ0001@pref.iwate.jp

東日本大震災津波からの復興を力強く進めていくためには、復興を担う個人や団体など多様な主体が、復興について幅広く教え合い、学び合うとともに、相互に交流や連携をしながら、復興の推進に生かしていくことが求められます。

そのため、岩手県内の産学官の連携組織「いわて未来づくり機構」では、「未来づくり=人づくり」との考え方のもと、「いわて復興未来塾」を開催しています。

参加申込〆切
12月4日（月）

【令和5年度第2回 いわて復興未来塾】

➤ 開催日時

令和5年12月17日（日） 13:30～15:30

➤ 会場

エスポワールいわて 大ホール（盛岡市中央通り1-1-38）

➤ 内容

・講演

盛岡市の復興支援と今後への提言

（盛岡市副市長 中村 一郎 氏）

震災津波の教訓を未来に生かすために

～故郷の復興・発展を支える人づくりを目指して～

（岩手県立図書館長 森本 晋也 氏）

・事例報告

読書活動を通じた被災者支援と教訓の伝承について

（認定特定非営利活動法人おはなしころりん理事長 江刺 由紀子 氏）

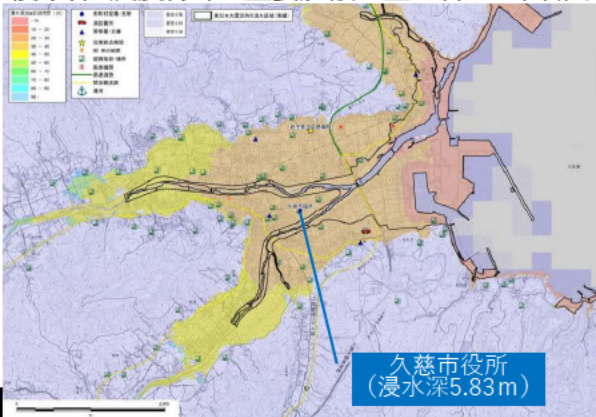
3 復興に向けて（引き続き取り組む主な課題）

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震・津波対策

津波避難計画の見直しや個別避難計画の作成、避難場所の整備促進など、沿岸市町村の取組へのきめ細かな支援

【岩手県の地震・津波被害想定】

浸水深・震度分布と重要施設の重ね合わせ図（久慈市）



津波避難訓練（久慈市）

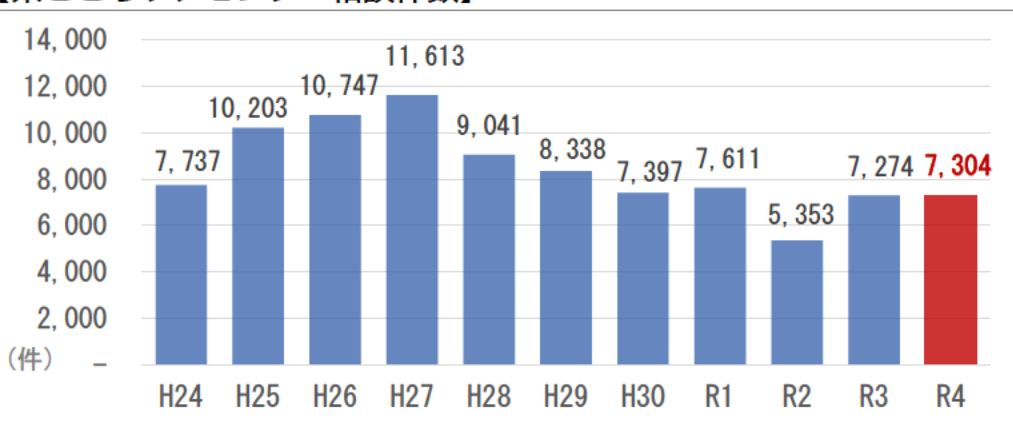
津波による人的被害想定
約7千人

※日本海溝モデル
（冬・夕18時頃）

被災者に寄り添ったところのケア

県こころのケアセンターには、震災から12年が経過した現在も多くの相談が寄せられている被災者のこころのケアの継続

【県こころケアセンター相談件数】



主要魚種の不漁対策

復興を支える水産業の再生に向け、「主要魚種の資源回復」、「増加している資源の有効利用」、「新たな漁業・養殖業の導入」などの不漁対策

【主要魚種の漁獲量】

	震災前a	R4年b	b/a
サケ	25,019t	446t	1.8%
サンマ	52,240t	3,485t	6.8%
スルメイカ	18,547t	2,010t	10.8%



不漁に打ち勝つ！

岩手県水産業リボン宣言



大型で遊泳力の高い強靱な

サケ稚魚の生産技術の開発・導入

事実・教訓の伝承

震災から12年半が過ぎ、東日本大震災津波の経験や記憶のない世代が増えている中、震災の事実・教訓を確実に次世代に伝承していくことが重要



WEBを活用した情報発信

【東日本大震災津波伝承館教育旅行での来館者数】

R元年度 開館(9/22)～3月	R2年度	R3年度	R4年度	合計 (R元～R4年度)
1,391人	10,060人	16,430人	16,903人	44,784人

【参考】サケ・マス類の養殖生産の取組

令和元年度以降、県内各地でサケ・マス類の海面養殖試験が開始され、県では、試験の実施に向けた助言・指導や、魚病対策、漁場環境調査等の取組を支援し、新たな漁業・養殖業の導入を推進。

現在、久慈、宮古、大槌など6地区においてトラウトやギンザケなどの海面養殖に取り組んでおり、令和5年度の生産実績は、前年度の約1.5倍となる1,800トンと生産量が拡大している。

また、新たに2地区で本格的な海面養殖の実施が計画されており、来年度は8地区で約1,900トンの生産が計画されている。

【サケ・マス類の養殖生産量】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年※
サケ・マス類の海面養殖生産量 (実施地区数)	16 t (1地区)	177 t (3地区)	569 t (4地区)	1,191 t (6地区)	1,810 t (6地区)
(参考) サケ漁獲量	2,292 t	1,734 t	413 t	446 t	24 t

※サケ・マス類の海面養殖生産量は、令和5年10月末現在の速報値

※サケ漁獲量は、令和5年10月31日現在の速報値



ICTを活用した餌の自動投与システム (大槌町)



サケ・マス類の海面養殖の様子 (宮古市)



久慈市魚市場に水揚げされたギンザケ (久慈市)



B

B

岩手県復興防災部

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号
TEL:019-629-6935 FAX:019-629-6944 Eメール:AJ0001@pref.iwate.jp

©岩手県観光協会